

鹿屋体育大学における実践的教育プログラム

萩 裕 美 子
鹿屋体育大学 教授



要 約

本学の教育目標の一つは「実学を重視し、科学的な基礎知識と幅広い応用能力及び優れた実技指導力をもった人材の育成」である。1984年の開学以来、実践的教育プログラムの柱となる授業として、学外スポーツ指導実習（旧：社会体育実習）を行なってきた。

対象学年は3年次学生で、実習期間は2週間である。必修科目としてスタートして1997年までは、3年次生の全学生約160名が毎年、全国の公共スポーツ施設や民間スポーツ施設、野外教育施設で学外スポーツ指導実習を行なってきた。2003年のカリキュラムの改訂に伴い、学外スポーツ指導実習をタイプ別に分けて、生涯スポーツ指導実習、スポーツコーチ実習、スポーツアスリート実習、アスリートサポート実習、武道指導実習、武道鍛錬実習とした。学生、実習先、大学の3者が綿密に連絡を取り合いながら実施している。まずは、学生が実習のタイプを選び、実習担当教員と話し合いながら実習場所を決定していく。内諾が得られた場合には大学から学長名の公文書を実習施設長宛に送り、実習としての受入承諾書を提出してもらう手続きになっている。2週間の実習中は実習先の指導担当者から具体的指導を受け、それらは実習日誌を通じて行なわれる。すべての施設ではないが、実習期間中に実習担当教員が実習先を巡回指導し、実習指導者と面談する。実習終了後、実習現場指導者から評価を受ける。実習担当教員はその評価を参考に、最終的に学外スポーツ指導実習の単位認定を行なっている。在学中にスポーツ指導の現場を体験することは、大学での学びをより効果的に結びつけることに役立ち、一層の教育的効果を上げている。卒業生のアンケート結果では、学外スポーツ指導実習における実践的指導力の習得には8割以上が満足していると回答している。

学外スポーツ指導実習の効果は、実習終了後の学生へのレポートやアンケート、また実習先への巡回指導のうちに担当者へのインタビューで確認している。学生のレポートでは、貴重な体験ができて自分自身の今後の進路選択の参考になり、現実の厳しさや指導者の仕事を具体的に体験することができて参考になったなどの報告が多い。